

過去の不利な経験 (deviation from the normal life course)と現在の社会的排除

■ 先行研究:

- 子ども期の貧困の影響: 阿部(2007)、大石(2007) 15歳時の生活意識が(現在の社会的排除)、(現在の所得)に影響、小塩他(2009)15歳時の貧困が現在の貧困に影響
- 海外では、子ども期の貧困と成人後のwell-beingの関係を示唆する分析は多数。
- Hobcraft(2002) 子ども期の家族形態、父親の職業階層などが現在の社会的排除を(maybe)表す outcome(所得、ホームレス、失業)に影響

ロジスティック分析

- 過去の不利: 15歳時点で生活保護にかかっていた、15歳時点の生活意識(5段階、自己申告)、低学歴、離婚歴、長期の疾病・怪我(1か月以上学業または仕事に影響があった)、非自発的失業、1年以上の失業経験
- 被説明変数: 社会的排除(排除指標 > 排除線)(7 dimensions)
- コントロール変数: 等価世帯所得、性別、年齢、単身世帯、子どもあり(17歳以下)、雇用形態

結果 (Table 6)

- 多くのDimensionにおいて、「過去の不利」は + significant (特にLack of Basic Needs)
- 「過去の不利」な体験が社会的排除のきっかけとなっている? (例: 長期失業 → 社会関係の欠如)
- 経済ストレスは、所得だけでは説明できない?
- 生活保護歴は、制度からの排除の確率を4倍に(そのメカニズムは??)
- 子ども期の貧困は、所得をコントロールしても影響が残る

図2 過去の「不利な経験」が現在の社会的排除を高める倍率



